

総合政策特別委員会における 平成28年度の重点的調査検討事項について

本年度、総合政策特別委員会が調査検討を行う事項として、以下のような内容が挙げられるのではないかと。

<①継続的に調査検討を行う事項>

ア) 第5期科学技術基本計画の着実なフォローアップと効果的・効率的な指標・データの活用方策

(主な検討事項)

- ✓ 第5期基本計画に沿った**文部科学省の取組実施状況と効果の把握**
- ✓ 関連分科会等における政策領域毎のフォローアップ実施状況の把握と、**個別分科会等が十分にカバーできない政策領域のフォローアップの実施**
- ✓ 文部科学省として**特に注視する指標(群)**の抽出・整備、持続的見直し
- ✓ **指標設定の上での諸課題への対応**(例: 指標の置き方が難しい、重要であるが定期的に収集しているデータがない、分野別に状況が異なる、現場の負担感がある等)
- ✓ 上記を踏まえ、第5期基本計画の進捗状況を把握し、取組効果を適切に測定するための、**エビデンスに基づくPDCAサイクルの確立**

<②上記に加え、平成28年度に重点的に調査検討を行う事項>

イ) 科学技術イノベーションへの投資効果の検証と発信

(主な検討事項)

- ✓ 政府研究開発投資目標(26兆円)の達成に向けた、**科学技術イノベーションへの投資(科学技術関係予算)の効果の検証**
- ✓ 科学技術イノベーションの**成果の対外的発信**の在り方

※ 経済財政諮問会議及び総合科学技術・イノベーション会議の下、経済社会・科学技術イノベーション活性化委員会(仮称)が設置されたことを踏まえつつ、検討を実施

ウ) 超スマート社会 (Society 5.0) の実現に向けた取組・推進体制の在り方

(主な論点)

- ✓ 文部科学省として、超スマート社会 (Society 5.0) の実現に向けて強化すべき具体的取組

(例)

- ・超スマート社会に向けて特に強化が必要となる**具体的革新技術**
- ・超スマート社会に求められる**人材の育成・確保の在り方**
- ・超スマート社会に向けた**科学技術イノベーション政策と他の政策分野との連携の仕組み**
- ・超スマート社会に想定される**倫理的・法的・社会的課題(雇用等)の先取りと、当該課題への対応の方向性** 等

※ AI技術については、政府等における各種検討が進んでいることを踏まえ対応

エ) オープンサイエンスの推進やデータ駆動型科学に関する取組の在り方

(主な論点)

- ✓ オープンサイエンスの**具体的な推進手法**(例: **オープン・クローズ戦略の在り方**、**データマネジメントルール・手法の整備方策**、**データ集積の在り方**等)
- ✓ オープンサイエンスの推進に必要な**人材の育成、確保、配置支援策の在り方**
- ✓ **データ駆動型科学の推進**と普及促進策の在り方
- ✓ 我が国発の**データジャーナル**の戦略的創出方策

なお、以下の事項については、今後、他の関連分科会等を含め政府において検討を進めていくこととなるが、本委員会でも積極的に検討状況を把握し、第5期基本計画全体のフォローアップを加速。

- ✓ イノベーションの源泉としての学術研究と基礎研究の推進に向けた**具体的取組**
- ✓ 基盤的経費と競争的資金の最適な配分の在り方
- ✓ 戦略的な国際連携のための方策
- ✓ 科学者・技術者と社会とのかかわりの強化策
- ✓ 新しいオープンイノベーションの仕組みや必要となる人材の在り方 等